

# 福島県出身 ボランティア現地レポート

## アフリカ ザンビア より



**JOCV 原 寛典**  
出身地：いわき市  
派遣国：ザンビア  
職 種：エイズ対策

私がザンビアでエイズ対策隊員として活動を始めて1年が経ちました。首都のルサカ市内にある「チャザンガコンパウンド」という貧困層の人々が暮らす地域の現地NGOに配属され、青年たちのピアエドゥケーターグループのマネージメントを任されています。具体的にはグループの啓発活動がスムーズにいくようにプログラムを考え、その活動を促進していくというものです。今は短い劇の中にエイズの啓発を盛り込むドラマパフォーマンスやコンドームの配布に力を入れ、青年たちと共に活動しています。



日本語に興味がある青年ボランティアのジョセフさん  
日本語で書いて見せたあとに真似して彼が書きました  
女性スタッフのパトリシアさん  
青年グループリーダーのベシリンさん

3人とも原さんと一緒に配属先の現地NGOに関わっている人たちです。たくさんの方が日本へのメッセージに協力してくれました。

この1年色々ありましたが、一番ショックだったのが東日本大震災でした。私は福島県いわき市出身で県内在住の家族、親戚、友人がたくさんいました。しかし、幸いにも全員無事であることがわかり、ほっと一安心。そんな時、さすが協力隊というか、各国で被災地支援の様々な動きが起こり始めたのです。私も、家族が無事だったからよかったのではなく、自分も何かできないだろうかと考えさせられました。そして、ベトナムの隊員が立ち上げたメッセージプロジェクト「世界からしあわせはこぼろプロジェクト」\*に参加したのです。まずは配属先のスタッフから、そして配属先でイベントを開いた時には学生たちからメッセージをもらいました。それまで日本の震災を知らなかった人たちもメッセージをきっかけに自分のことのように私の家族や被災地の人たちを心配してくれたのが印象的でした。この1年でわかったこと、学んだことがたくさんあります。残り1年、少しでも現地の人たちのプラスとなるように今までの経験を活動に活かしていきたいと思ひます。「やらない善よりやる偽善」、このモットーは変わりません。

\*青年海外協力隊や現地の人々にメッセージや絵・写真を書いてもらい、被災地の方々に元気づけることを目的としたプロジェクト

### 福島県出身のJICAボランティア 平成23年度 第3次隊

※紹介欄にあるJOCVとは「青年海外協力隊」、SVとは「シニア海外ボランティア」のことです。

二本松青年海外協力隊訓練所では、105名の候補者が10月5日(水)に派遣前訓練を開始しました。また長野県にある駒ヶ根訓練所では同じく74名が派遣前訓練を開始しました。

#### JICA二本松

**JOCV 北郷 道**  
出身地：いわき市  
派遣予定国：ウガンダ  
職 種：小学校教諭



訓練が始まり、全国から集まったたくさんの素晴らしい仲間と出会いました。震災からたった半年ですが、ここ二本松で私たちを温かく受け入れてくださる多くの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。やる気！元気！根気！で充実した2年間にしたいです。

#### 駒ヶ根訓練所

**JOCV 泉田 裕章**  
出身地：大熊町  
派遣予定国：パプアニューギニア  
職 種：理数科教師

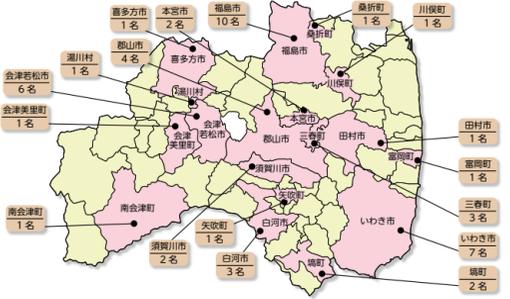


震災ではたくさんの人の助けに感謝しています。そして、こんな大変な時に協力隊への参加を後押ししてくれた家族、地元や職場の仲間にも感謝しています。現地では自分ができるところを精一杯やって2年後、元気に福島に帰ってきます。

### 福島県出身 JICA ボランティア 2011年10月4日現在(派遣中)

福島県出身 JICA ボランティア人数 合計派遣中 58名 / 累計 528名	
青年海外協力隊員数	
派遣中	49名
累計	487名
シニア海外ボランティア数	
派遣中	8名
累計	28名
日系社会青年ボランティア数	
派遣中	0名
累計	9名
日系社会シニアボランティア数	
派遣中	1名
累計	4名

※これまで「あだたら」の福島県出身JICAボランティアの数は、出身県と併せて派遣中の在住者も一部含まれていました。今後は出生地が福島県であることに統一し人数を記載いたします。



FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2011

JICA二本松で世界を学ぶ！

## ふくしまグローバルセミナー

日時 平成23年 12月10日(土) 10:00-15:30  
場所 JICA二本松 (福島県二本松市)

対象 第一級(高校生以上)  
参加費 1,000円  
募集締切 平成23年11月22日(火)必着  
参加費 1,500円(昼食代、及び資料代)

### 12月～1月のイベント

12月10日(土)	ふくしまグローバルセミナー2011
12月12日(月)～15日(木)	平成23年度第3次隊出身地自治体赴任前敬挨拶
1月3日(火)～8日(日)	教師海外研修ベトナム派遣
1月6日(金)	平成23年度第4次隊入所式
1月21日(土)	派遣中ボランティア留守家族連絡会



JICA 二本松

独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所  
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2 TEL.0243-24-3200 FAX.0243-24-3214  
募集・広報担当 E-mail: jicanjv@jica.go.jp JICA 二本松 検索

◆本誌、バックナンバーをご覧になれます...URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

**読者の皆様へ**  
福島県内の小・中・高・大学等、会社、団体で行っている国際協力活動を紙面でご紹介します。情報をお寄せください。

※皆様からのご意見等をお待ちしております。  
本誌に関わるご意見・情報の連絡先  
国際協力推進員 清海陽子 公益財団法人福島県国際交流協会 JICA デスク  
TEL:024-524-1315 FAX:024-521-8308  
〒960-8103 福島県福島市舟町2-1 福島県庁舟町分館2階  
Email:jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp

JICA二本松へのアクセス

# あだたら



10月5日、23年度3次隊の訓練が始まりました。大震災後、避難所として被災者の皆様を受入れていた際には、JICA 大阪を使用しての訓練でしたので、今年度初めての訓練となります。

関係者は元より、市民の皆様にもたくさんの応援をいただき、訓練を再開することができましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

所長 水谷 恭二

## 二本松訓練所、再開

FUKUSHIMA

10月18日(火)~19日(水)

# 緒方理事長来県

緒方貞子理事長が二本松訓練所を訪問しました。10月5日からJICAボランティア派遣前訓練を再開した状況を視察しました。

その後、福島県知事や二本松市長を訪問し、お見舞いの言葉を申し上げるとともに、訓練再開の報告を行いました。佐藤知事は同訓練所の避難所提供について感謝を述べられ、緒方理事長は「青年海外協力隊も福島の実態を学び、海外で語ることが大事だと感じた」と述べました。

また福島市内の除染活動の状況や相馬市の被災現場を視察したほか、福島大学で復旧への取り組みの様子を聴取しました。



福島県庁で佐藤雄平福島県知事と対談する緒方理事長

## NPO花見山を守る会、大玉社協との被災者生活支援活動

訓練の一環として、周辺の保育施設、福祉施設、農家などで日常業務を体験する所外活動というものがあります。

今回は復興支援を目的として、NPO 花見山を守る会及び大玉村社会福祉協議会の協力をいただき、NPO 花見山を守る会本部のほか福島市内と大玉村の仮設住宅計 8 か所の生活支援活動を行いました。絆づくりを目的としたチャリティバザーや物資の配布、アンケート調査など 2 日にわたって実施しました。



仮設住宅内を巡回し、花の鉢植えを配りながらアンケートによるニーズ調査



NPO 花見山を守る会本部にて全国から集まる支援物資の仕分け作業

# ふくしまの現場から ~JICA職員有志による「元気玉プロジェクト」支援~



橋本 秀憲  
(JICA 職員 財務省に出向中  
二本松市出身)  
元気玉プロジェクト  
支援発起人

福島県会津若松市、福島第一原子力発電所から約 100km離れたこの街にも、原発・津波の避難者が今も数千人 (或いはそれ以上) 生活しています。その方達の生活支援活動を中心に行っている市民団体が「元気玉プロジェクト」です。我々 JICA 職員有志は、5 月末から 9 月末まで、1 週間交替で現地入りし、支援活動を実施してきました。

元気玉の理念は、避難者に寄り添った自立の支援です。その中で、我々有志が担当した活動は、避難者の実態把握 (どこに何人いて、そのうち要介護者や高齢者単身世帯等がどの程度か等)、仮設住宅を各戸訪問してのニーズ聞き取り調査、そのデータの取りまとめ・分析・関係者への共有、今後の支援活動の基礎資料の作成、役場を突撃訪問しての各種施策の情報収集と営業活動 (連携の模索)、他の支援団体との連携などでした。

これらは非常に地道な活動ですが、役場や他の支援団体を含む多くのステークホルダーを調整しつつ、避難者のニーズを汲み取り、それに即した支援を行うというスタンス自体は途上国開発において JICA が果たすべき役割に通じるものがあり、我々有志にとっても一つの現場経験としての学びの機会にもなりました。そして何より、JICA 職員として、途上国支援の本来業務を通じて培われた経験や能力を活かし、元気玉の活動に貢献できた部分も大きかったのではないかと考えています。

この活動では、会津から東京への毎日のレポーティングや帰京報告会を実施することにより、後に派遣される有志との情報共有に努め、元気玉側の受け入れコストを減らすよう努めました。また、東京で事務局を立ち上げ、有志の募集、説明会の実施、派遣の日程調整、帰京報告会のアレンジ等に加え、会津で入手した情報を東京で加工するという分業も行い、限られた人数で最大の効果を上げるよう努めました。

現在福島では、この避難者に寄り添った自立支援活動を福島県全体に拡大しようとする動きがあり、その推進母体たる「ふくしま連携復興センター」(れんぷく) が 8 月に立ち上っています。主要構成メンバーは、福島大学と元気玉をはじめとする、県内各地域の市民団体であり、それぞれ自身の活動と並行しての参画であり、スタッフが不足している状況であり、我々 JICA 職員有志としても、何らかの形で継続的な支援を実現すべく、知恵を絞っている状況です。

これまで、この活動に携わって下さった職員有志は合計 32 名 (以下ご参照)。筆者自身、まさに「走りながら考える」活動であったため、幾度と無く軌道修正が必要となり、有志の皆様を何度も混乱させてしまったことは反省点ですが、先輩後輩にかかわらず、(時にぶつかりながらも)フラットに議論させて頂き、甚大なるご協力とご理解を頂いたことには、福島県出身者としても、プロジェクト発起人としても、心から感謝を申し上げます。また、筆者が財務省出向になってから、代表として活動して下さっている中山慎太郎さんと大林孝典さんに、心から感謝申し上げます。

### 現地入りした有志のメンバー

(派遣順、敬称略) 佐藤陽介、更科亮、北松祐香、大木扶由子、中山慎太郎、大林孝典、若宮愛、岡田綾、岡田篤、木村明広、古田国之、原口瑛子、長島美恵、円谷直子、近藤奈々、三村悟、鳥居香代、布谷真知子、杉村留美、青晴海、神谷克彦、宮林由美子、瀬戸典子、寺門雅代、梁瀬直樹、土井ゆり子、桂井太郎、佐藤隼人、日原一智、猪上美代子、高柳千尋、瀬古素子



▲元気玉プロジェクト事務所内の様子

### ※「元気玉プロジェクト」

会津若松市のNPOや企業が共同で立ち上げ、会津若松市に避難している人々の生活支援を実施するプロジェクト。県内、首都圏や関西の企業、NPO、大学とも連携して各種生活支援(教育ボランティア等)や情報収集・分析・発信、避難所や仮設住宅のニーズアセスメント等を実施。



青 晴海  
(JICA 青年海外協力隊  
事務局次長)  
元気玉プロジェクト  
支援参加メンバーの一人

今年 5 月から JICA 職員有志が福島県の元気玉プロジェクトの活動支援をしてきました。

私は 8 月上旬に 1 週間現地入りして、主に被災者の方々に対する生活環境調査 (アセスメント) のお手伝いをしました。被災者の方々の気持ちを受け止めることは、たった 1 週間しかいない私たちができることは少ないと思います。ただ、被災者の方々の気持ちや伺ったことを正確に書き留めて、それを関係者につなぐ役割だけは果たせたのではないかと考えています。

これからの生活設計への不安、家族が別れて住むことに対する悩み、子供の健康に対する不安、故郷に戻りたい気持ちとそれができないことへの無念さなど、被災者の方々の気持ちを、私たち被災していない人たちがどのように受け止めて、行動すべきか、私たち自身に問われている問題です。

復興は 5 年・10 年といった長期間の取り組みと支援が必要です。私たちには継続的で、粘り強い対応が求められているのだと思います。



▲仮設住宅外観の様子

## JICA二本松

# イベント便り

### 10月2日 秋募集説明会開始

福島県内の募集説明会は 2 日、福島市 (コラッセふくしま) をトップにスタートしました。約 20 名が参加し、帰国隊員による体験談発表や個別相談が行われ、参加者は関心のある職種や現地の状況などについて話を聞きました。福島県内ではいわき市、郡山市、二本松市を合わせ計 4 か所で開催されました。また会津若松市においてはボランティアセミナーとして行いました。

### 10月4日~6日 二本松提灯祭りブース出展

今年も JICA ブースを出展しました。ブースでは今回の大震災にあたり海外から寄せられたメッセージを展示したほか、ミサンガ作りを行い、連日地域の学生や親子連れでにぎわいました。

※ミサンガとは刺繍糸をあわせて編み、手首や足首に巻き付けて使用するもの。紐が自然に切れると願い事が叶うといわれます。



### 10月5日 ボランティア派遣前訓練開始

震災後、当訓練所では被災者受け入れを実施していたため、訓練生の受け入れは今年度では 23 年度 3 次隊が初となりました。「[ほんまつ地球市民の会]」の方々から二本松駅に集まり、全国から集まる JICA ボランティアを歓迎しました。

